



佐藤 未雲  
さとう みくも

スペースチャイナ代表取締役

中国に「千里馬常有、而伯樂不常有。」(千里の馬は常にあれども、伯樂は常にあらず)という諺がある。伯樂とは中国古代の伝説上の人物で、名馬を見分ける達人であるが、転じて人や物の資質や能力を見抜き、またそれを活かすことに巧みな人を指す。

台湾研修の中で伯樂を彷彿とさせるエピソードをみつけたので、ご紹介したい。

週末、生徒たちは台湾北部の町へ日帰り旅行に出かけた。そこは映画「千と千尋の神隠し」のロケ地として人気を集めた町で、赤いちょうちんのかかったレトロな家々が狭い階段をはさんで立ち並んでいる。アニメ好きな生徒たちは、映画の光景が実際に見れるとあって、われ先に観光バスへと乗り込んだ。

途中、少し遠回りして西海岸にある景勝地を生徒たちに見せることになった。

「皆さん、ご覧ください、こちらが二色湾です」。ガ

## 南風

イドさんは、流暢な日本語で説明をし、しきりに写真撮影を勧める。この地域は、昔金鉱の町として栄えた場所であったが、現在は閉鎖されている。鉄分を含んだ水が海に流れ込み、海の青と山の浅黄色の水が二色の層をなして美しい、とガイドさんは誇らしげにいう。

取り立てて美しい景色というわけでもなかったが、熱心な説明を聞いているうちに、最初興味を示さなかった生徒たちも、しまいは何度もカメラのシャッターを押していた。

沖縄には、素晴らしい自然資源がある。しかし、エメラルドグリーン美しい海を常に目にしていると、その貴重さが分からなくなってしまう。千里の馬に値する資源は、ほかにもたくさんある。私たち一人一人が、伯樂になってその価値を再認識し活かすことができれば、新しい観光スタイルにもつながるのではないだろうか。

## 伯樂

琉球新報 2009年10月14日